

2023年3月期 第1四半期 決算概要

2022年8月9日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



CAFOの武藤でございます。2023年3月期 第1四半期決算の概要を説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

第1 四半期業績のハイライト

■ 売上収益

- 3カンパニーいずれも、前同比プラス伸長し、過去最高の実績
- 症例数など医療需要が回復、為替も寄与し、海外の全地域で前同比二桁伸長
- 為替を除いても全地域で前同比プラス伸長

■ 営業利益

- インフレ影響によるコスト増加があったものの、増収により売上総利益は8%増
- コロナ禍から回復途上にあった前年同期と比べ、販売促進、研究開発など活動は活発化
- 営業利益は、前同比では16%減、前期の第4 四半期比では大幅増

まず始めに、本決算のハイライトです。

売上収益は3カンパニーいずれも前同比でプラス伸長し、四半期として過去最高の実績となりました。

症例数など医療需要の回復が強く、為替も寄与し、海外の全地域で前同比、二桁の伸長です。

為替を除いても全地域で、前同比プラス伸長でした。

利益について、インフレによる影響を受けましたが、増収により売上総利益額は8%伸長しました。

一方で、昨年はコロナ禍からの回復途上で緩やかであった販売促進、研究開発の活動が活発化しました。

その結果、営業利益は前同比では16%減となりましたが、前期の第4四半期と比べると41%の大幅増です。

通期業績予想に対する進捗は、売上収益25%、営業利益は23%です。

なお、インフレ対策には、価格転嫁を実施する一方、需要増に応じた最適な輸送手段の選択や、主要部材の在庫確保による工場操業度の安定に取り組めます。さらにGS26で掲げたグローバル最適地での生産・調達を加速度的に進めていきます。

P&L実績

- 売上収益：症例数など医療需要は全般的に回復し、再び伸長のトレンドへ。為替（円安）も寄与し、四半期として過去最高
- 営業利益：市況影響（インフレ）によるコスト増加があったものの、増収により売上総利益は増加。一方で、販売促進や研究開発などの活動はコロナ禍から脱して活発化したため、16%の減益

金額（億円）	FY21 Q1	FY22 Q1	増減率	為替除く増減率
売上収益	1,717	1,973	15%	5%
売上総利益 (%)	943 (54.9%)	1,016 (51.5%)	8%	2%
一般管理費 (%)	465 (27.1%)	566 (28.7%)	22%	10%
研究開発費 (%)	117 (6.8%)	141 (7.1%)	20%	11%
その他収益費用	1	-6	-	-
営業利益 (%)	362 (21.1%)	304 (15.4%)	-16%	-14%
調整後営業利益 (%)	402 (23.4%)	359 (18.2%)	-11%	-11%
税引前利益 (%)	360 (21.0%)	297 (15.0%)	-18%	
当期利益 (%)	279 (16.2%)	224 (11.4%)	-20%	

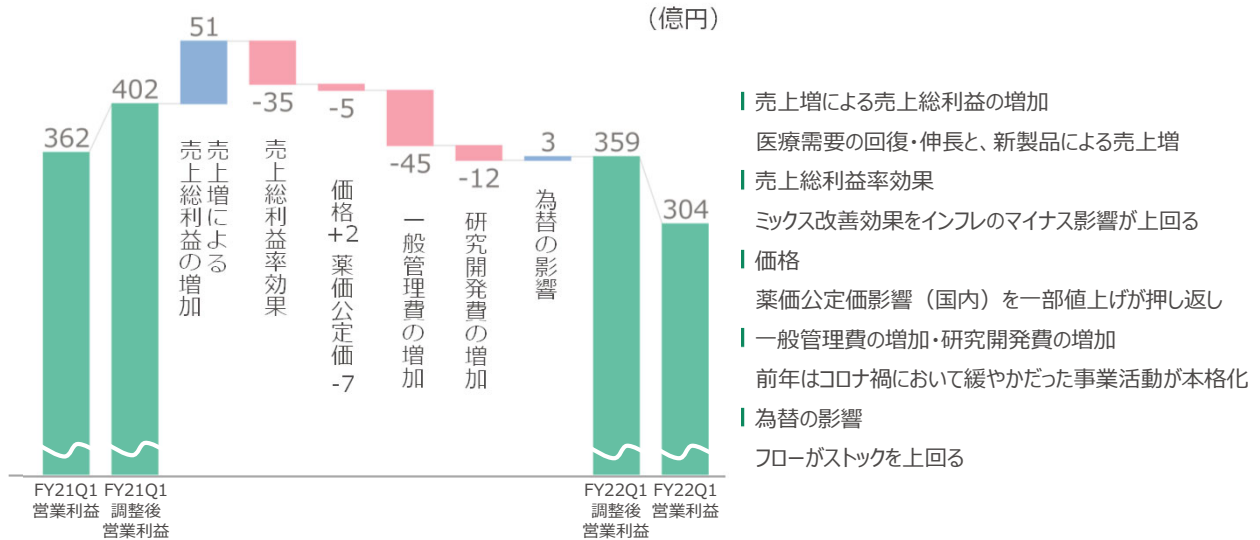
期中平均レート(USD/EUR) 110円/132円 130円/138円

売上収益は、1,973億円となり、四半期として過去最高でした。前年同期比15%増加です。為替を除く伸び率は5%でした。

インフレによる製造コスト増分を増収により一部吸収しましたが、一般管理費・開発費もコロナ禍下での活動と比べ、活発化し、増加し、営業利益は304億円と、前年同期比では減益となりました。

一方で、前期末の第4四半期と比べると、約4割の増益です。この推移につきましては、参考資料14ページをご覧ください。

営業利益増減分析（Q1）



営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は51億円のプラスでした。

「売上総利益率効果」は、主に心臓血管カンパニーのTIS事業の売上増によるミックス改善効果がありましたが、材料費・輸送費・労務費に電気などユーティリティのコストのインフレ影響が上回り、マイナス35億円となりました。

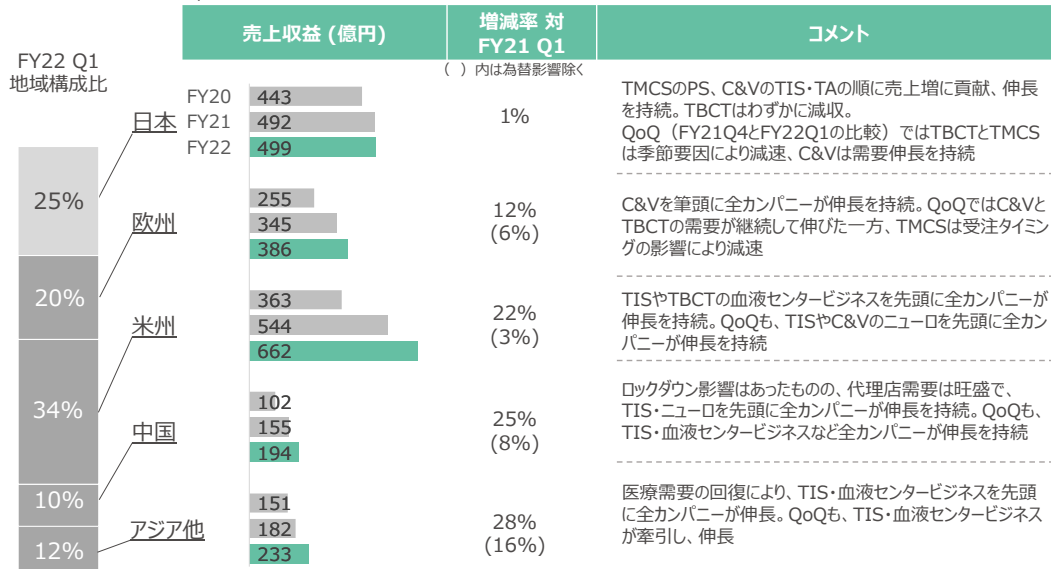
「価格」は、薬価公定価の下落影響7億円に対し、2億円の値上げ効果が押し返しました。

一般管理費や研究開発費については、活動が活発化し、さらに血液細胞テクノロジーカンパニーの血漿イノベーション事業の先行費用が加わり、増えました。

「為替の影響」は、売上が順調に伸びた中国と欧州との為替が、フローにおいてプラスに働きましたが、Q1末に為替がはねたことで棚末によるストックのマイナスがでて、ほぼオフセットする形となりました。

地域別売上収益

(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー、PS: ファーマシューティカルソリューション、TIS: 血管内治療システム)



日本の売上では、テルモメディカルケアソリューションズのファーマシューティカルソリューション、心臓血管カンパニーのTIS、TAの順に伸びました。

欧州では、心臓血管カンパニーを筆頭に、全カンパニーが増収しました。今期はコロナ影響がなく、症例数も順調に推移しました。血液細胞テクノロジーカンパニーでは、全血製品の入札案件が寄与しました。

米州は、心臓血管カンパニーのTIS、テルモメディカルケアソリューションズのVET市場向け医療器、さらに血液細胞テクノロジーカンパニーの血液センター事業が牽引して、全カンパニーが増収となりました。ニューロ事業、血管事業も順調に伸びています。

中国は、5月に都市部のロックダウンによる症例数減少の影響が最大化しましたが、代理店の需要は旺盛で、為替影響を除いても前同比8%の伸長でした。

アジア他は、医療需要の回復により、心臓血管カンパニーのTISや血液細胞テクノロジーカンパニーの血液センター事業が順調に伸びました。

C&V :

症例数は日本を除く各地域で回復から成長のトレンドへ回帰し、全事業で売上が伸長。セグメント利益は、事業活動の活発化に伴い、平常レベルに

	Q1			コメント	Q1 売上増減
売上収益	()内は為替影響除く			TIS : 公定価改定影響のあった日本は伸びが緩やか、海外は二桁成長を実現、アジア、中国、米州の順に伸びた。中国ではロックダウンによる症例減はあったものの、代理店の需要は旺盛だった。Oncology、Endovascularが高い伸長 ニューロ : 欧米中心に症例数が伸び、製品別には、血栓吸引カテーテルが引き続き伸びて、WEBが北米中心に拡大。新製品を投入したフローダイバーターは、四半期の推移で回復に転ずる CV : 欧米の症例数が伸びて堅調に推移、前年にECMOの需要が牽引した日本のみ、微減 血管 : 欧米の症例数が伸びたことに加え、ステントグラフトの新製品が売上増に寄与	+118
	673	996	1,168		
			+17% (+5%)		
セグメント利益	124	294	280	利益 : インフレ影響の一方、事業活動はコロナ禍から脱して活発化したため一般管理費が増加、セグメント利益はマイナス	+8
			-5% (-9%)		
利益率	18%	29%	24%		

©TERUMO CORPORATION

7 / 22

TERUMO

全体の売上収益は、1,168億円となり17%の伸長でした。前期Q4からも14%伸びました。

症例数は日本を除く各地域で、コロナから回復して、コロナ前の成長トレンドへ回帰しています。

TISは、公定価改定の影響で日本は緩やかでしたが、海外は二桁成長、アジア、中国、米州の順に伸びました。OncologyやPeripheral領域の症例数が回復・成長したことも伸びの一因です。

ニューロは、北米・欧州を中心に、症例数が伸びました。これを受けて、血栓吸引カテーテルが引き続き伸びた上、北米のWEB拡大も見られました。競合の攻勢を受けていたフローダイバーターは、コーティングを施した新製品を投入した効果で、回復に転じています。

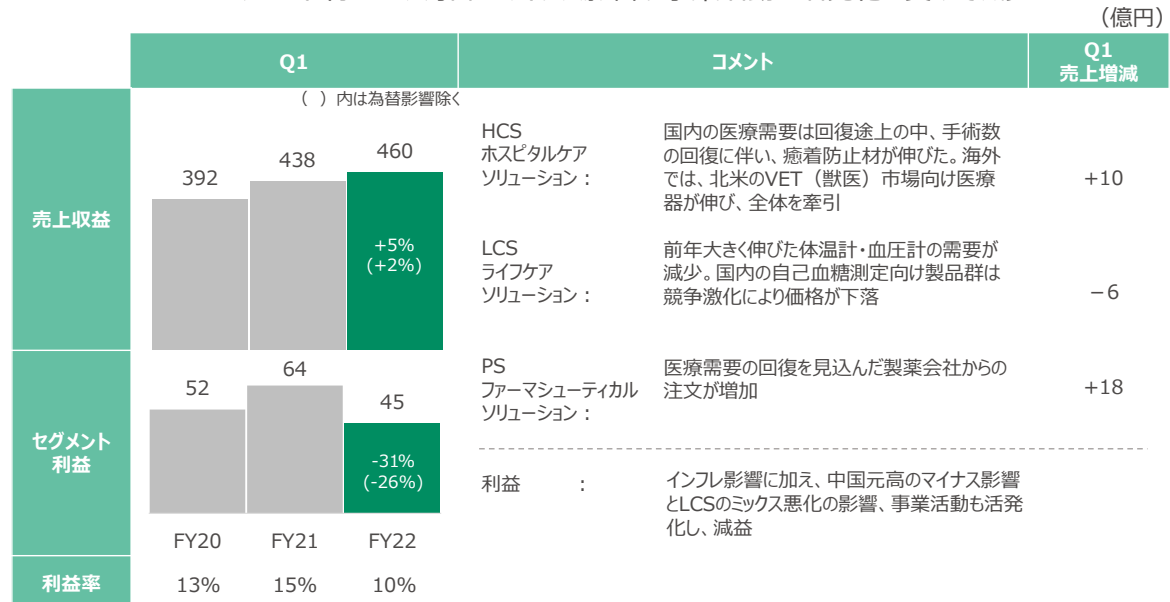
CVも、北米・欧州において症例数が伸びて、堅調に推移しました。前年にECMOの需要が牽引した日本のみ、微減となりました。

血管は、北米・欧州において症例数が伸びたことに加え、新製品の胸部ステントグラフトRelay Proが、日米などで売上増に寄与しました。

利益は、販売活動・費用支出が本格化して、結果、セグメント利益は減少しましたが、想定通りです。

TMCS :

ファーマシューティカルソリューションと北米・医療器が牽引し、売上はプラス伸長。
セグメント利益は、為替のマイナス影響や事業活動の活発化を受けて減少



©TERUMO CORPORATION

8 / 22

TERUMO

全体の売上収益は、460億円となり5%の伸長でした。前期Q4からは1%の減となりました。

事業別に、HCS、ホスピタルケアソリューションは、国内の医療需要はまだ回復途中ですが、手術数が戻ってきたことにより癒着防止材が伸びました。また、海外は北米のVET、獣医市場向け留置針など医療器が伸びました。

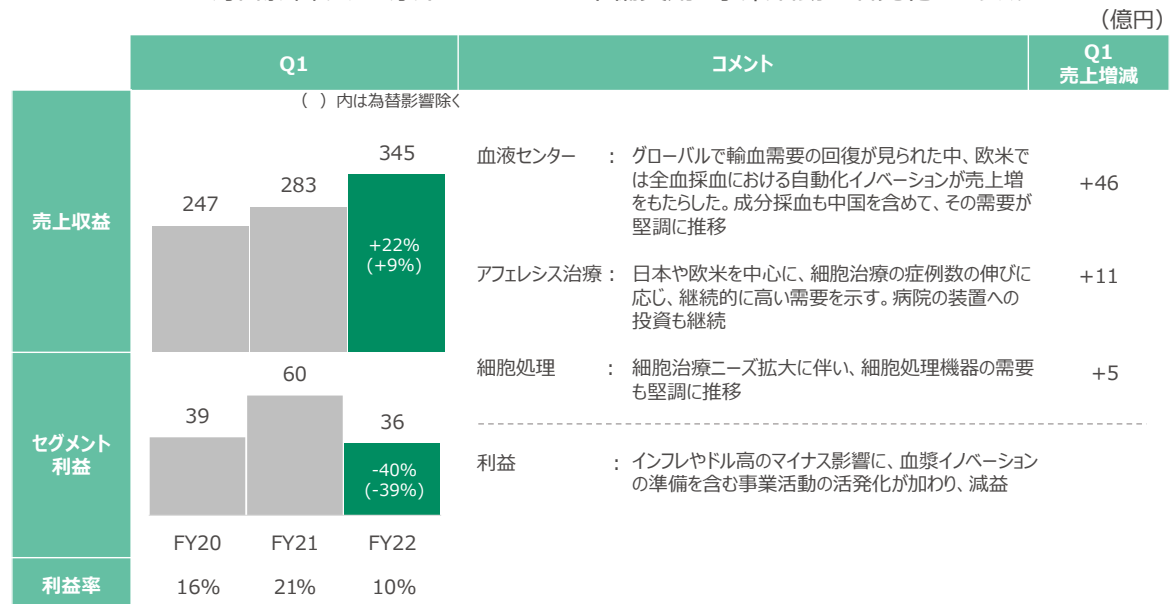
LCS、ライフケアソリューションは、前年はコロナ禍において増した体温計・血圧計の需要が平常化、また自己血糖測定の製品群の競争激化による価格下落が影響しました。

PS、ファーマシューティカルソリューションは、医療需要の回復を見込み、製薬会社からの注文が増加しました。

セグメント利益は、中国元高による製造原価高騰によるマイナス影響、ライフケアのミックス悪化を受けて粗利が低下したことに加え、販管費も通常レベルに戻りつつあり、減益となりました。

TBCT :

全血市場における自動化イノベーションと需要回復が寄与し、売上は大きく伸長。
為替影響や、血漿イノベーションの準備費用と事業活動の活発化により減益



©TERUMO CORPORATION

9 / 22

TERUMO

全体の売上収益は、345億円となり22%の伸長でした。前期Q4からも13%増です。売上収益は、グローバルで全血採血市場の需要が回復、アフレスシ治療や細胞処理も堅調に伸び、大きく伸長しました。

血液センター向けビジネスは、グローバルで輸血需要が回復し、欧米では全血採血における自動化イノベーションが売上を増やし、成分採血も、中国をはじめ需要が堅調に伸びました。

アフレスシ治療は、日本や欧米を中心に、細胞治療数の伸びに応じ、継続的に高い需要が続いています。病院の装置への投資も続いています。

細胞処理は、細胞治療ニーズの拡大に伴い、機器の需要が堅調でした。

利益は、インフレが特に米国の製造原価高騰を招き、血漿イノベーションの先行費用と販促活動の活発化も加わって、減益となりました。なお、生産最適化によるコスト力での生産数は計画をこえて伸びています。

製品パイプラインとトピックス

※ C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー、TIS: 血管内治療システム、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション

主要製品の発売・適応取得状況

領域	一般名	製品名	FY21まで	FY22	FY23以降
TIS	薬剤溶出型冠動脈ステント	Ultimaster Nagomi	日本で販売	欧州で発売	アジア・中南米で発売
ニューロ	血流改変ステント	FRED X	欧州・米国で販売	米国で拡販、地域拡大	
血管	胸部大動脈ステントグラフト	Relayシリーズ	欧州で販売、米国・日本で瘤の適応取得	米国で解離と外傷性損傷、日本で解離の適応取得	品種追加、RelayBranchの臨床試験を実施
HCS	汎用輸液ポンプ	テルフュージョン輸液ポンプ18型	日本で販売	欧州・中南米で発売	アジアで発売
LCS	パッチ式インスリンポンプ	メディセーフウィズシリーズ	現行モデルを日本・欧州で販売	改良品を日本で発売	DiabeLoop社とのAIDシステム連携、地域拡大検討
TBCT	細胞増殖システム	Quantum Flex	Quantumをグローバルで販売	品種追加としてQuantum Flexを発売	細胞処理事業で二桁成長を目指す



FRED X



RelayPro

主なトピックス

- ・ 全社 : テルモのパーパスを発表 ～「医療の進化」と「患者さんのQOL向上」への貢献～
- ・ C&V : 世界初の大規模臨床試験「DISCO RADIAL」の結果を発表。ラジアル手技の新たなエビデンス構築を支援
- ・ TMCS : 医療用閉鎖式輸液コネクタ「シユアブラグAD」が「令和4年度全国発明表彰」の「発明協会会長賞」および「発明実施功績賞」を受賞
- ・ TBCT : 原料血漿採取システムの新拠点リトルトン工場竣工

1 Qに新製品の中で売上を大きく伸ばしたのは、米国で昨年上市したRelay Pro、17mm投入の効果と米国の施設数拡大が進んだニューロのWEB、さらに反転攻勢の主役となるFRED Xです。

Relayはスライドにある通り、今後、解離など追加適応となれば、さらに拡大が期待できます。

また、先週のニュースですが、原料血漿採取システムのRikaによる採取がいよいよスタートしました。

主なトピックのうち、7月8日に、テルモのパーパスを発表いたしました。これからの10年を見据え、世界の医療にどのような貢献ができるのか、自らに問いかけ、また社会の期待にも応えるため、テルモが目指す方向性をより具体的に示すことができました。

以上で、決算説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

売上明細（地域別・事業別）

2022年度 第1四半期 セグメント別売上収益

Revenue by Segment for the First Quarter of FY2022

(百万円 / millions of yen)

		Q1 YTD FY2021							Q1 YTD FY2022							構成比 % to total							
		日本 JPN	海外 Overseas	欧州 Europe	米州 Americas	中国 China	アジア他 Asia and others	合計 WW	日本 JPN	%toT	海外 Overseas	%toT	欧州 Europe	%toT	米州 Americas		%toT	中国 China	%toT	アジア他 Asia and others	%toT	合計 WW	%toT
心臓血管 カンパニー	TIS	7,862	59,069	16,166	26,176	10,040	6,685	66,932	8,064	2.8%	70,641	19.8%	17,656	9.2%	31,551	20.3%	12,108	20.6%	9,324	19.5%	78,705	17.6%	39.9%
	ニューロバスキュラー	1,371	12,532	4,228	5,818	1,845	939	13,904	1,342	-2.1%	16,055	28.1%	4,925	16.5%	7,120	29.0%	2,667	44.5%	1,342	42.9%	17,397	25.1%	8.8%
	カーディオバスキュラー	2,749	9,239	1,856	6,017	526	1,239	11,889	2,622	-4.6%	10,158	9.9%	1,552	6.6%	6,474	7.6%	600	-13.9%	1,532	-21.6%	12,781	6.6%	6.3%
	血管	714	6,027	3,297	1,973	401	353	6,742	823	13.3%	7,116	18.1%	3,853	16.9%	2,594	31.4%	340	-13.1%	326	-2.8%	7,940	17.8%	4.0%
Cardiac and Vascular Company		12,698	86,869	25,148	39,687	12,814	9,219	99,568	12,853	1.2%	103,972	19.7%	27,989	11.3%	47,740	20.3%	15,716	22.7%	12,525	35.9%	116,825	17.3%	59.2%
メディカルケア ソリューションズ カンパニー	ホスピタルケアソリューション	23,406	6,646	753	2,149	352	3,390	30,143	23,310	-8.8%	7,868	18.4%	701	-6.9%	2,806	30.0%	544	34.5%	3,816	12.5%	31,179	3.4%	15.8%
	ライフケアソリューション	5,722	829	200	8	229	390	6,551	5,110	-10.7%	815	-1.7%	203	1.0%	-	-100.0%	307	34.0%	304	-22.0%	5,925	-9.6%	3.0%
	ファーマシューティカルソリューション	4,776	2,310	1,464	580	20	245	7,087	6,091	-27.5%	2,706	-21.0%	1,693	15.7%	696	20.0%	80	200.5%	324	23.5%	8,887	25.4%	4.3%
Medical Care Solutions Company		33,906	9,786	2,419	2,738	602	4,027	43,783	34,512	-1.9%	11,480	17.3%	2,598	-7.4%	3,503	27.9%	931	54.7%	4,446	10.4%	45,992	5.0%	23.3%
血液・細胞 テクノロジー カンパニー	血液センター	2,300	18,252	5,337	7,022	1,732	4,161	20,552	2,303	0.2%	22,886	25.4%	6,074	13.8%	9,049	38.9%	2,411	39.2%	5,350	28.6%	25,190	22.6%	12.8%
	アブレスシズ治療機	77	5,551	1,408	3,169	264	709	5,628	118	-1.1%	6,572	18.4%	1,680	19.2%	3,794	19.7%	300	14.0%	796	12.3%	6,690	18.9%	5.4%
	細胞処理	39	2,080	187	1,779	60	52	2,119	20	-0.8%	2,558	22.0%	230	22.1%	2,157	21.2%	7	-86.9%	162	209.5%	2,579	21.7%	1.2%
Blood and Cell Technologies Company		2,416	25,884	6,933	11,971	2,057	4,923	28,301	2,441	1.1%	32,018	23.7%	7,986	15.2%	15,001	25.3%	2,720	32.3%	6,310	28.2%	34,459	21.8%	17.5%
その他		64	-	-	-	-	-	64	62	-2.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	62	-1.2%	0.0%	
合計 Total		49,175	122,541	34,501	54,397	15,473	18,169	171,716	49,869	1.4%	147,470	20.3%	38,574	11.8%	66,244	21.8%	19,369	25.2%	22,282	28.1%	197,340	14.9%	100.0%
売上比率 % to Total		28.6%	71.4%	20.1%	31.7%	9.0%	10.6%	100.0%	25.3%		74.7%		18.5%		33.6%		9.8%		11.8%		100.0%		

(期中平均為替レート)

(Average Exchange Rates)

(USD)=¥109.52

(EUR)=¥131.94

(USD)=¥120.73

(EUR)=¥138.26

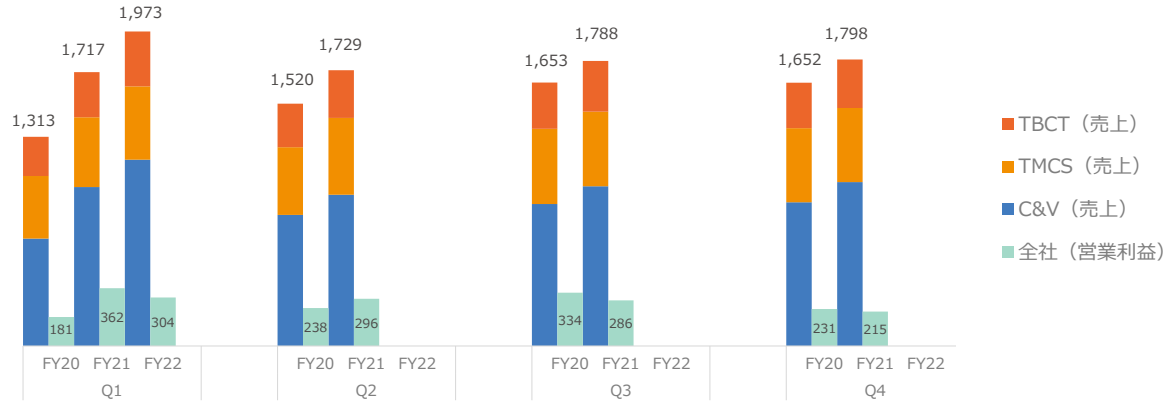
* 2022年度より、従来の「ホスピタルカンパニー」のセグメント名称を「メディカルケアソリューションズカンパニー」に変更しています。なお、サブセグメントについては、従来の「血液・細胞テクノロジーカンパニー」に「DM+ヘルスケア事業」が「ライフケアソリューションズカンパニー」に、「カーディオバスキュラー事業」が「ニューロバスキュラーカンパニー」に、「ファーマシューティカル事業」が「ファーマシューティカルソリューションズカンパニー」に変更となっています。これに伴い、2021年度についても、変更後の名称で記載しています。

売上収益・営業利益の四半期推移

売上収益： Q1実績は前年同期比15%伸長、QoQで10%伸長し、四半期として過去最高

営業利益： Q1実績は前年同期比16%減、QoQでは41%伸長

(億円)



P&L（四半期推移）

（億円）

	FY21 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)	
売上収益	1,717	1,729	1,788	1,798	1,973	
売上総利益	943 (54.9%)	920 (53.2%)	926 (51.8%)	905 (50.3%)	1,016 (51.5%)	
一般管理費	465 (27.1%)	490 (28.4%)	507 (28.4%)	528 (29.4%)	566 (28.7%)	
研究開発費	117 (6.8%)	130 (7.5%)	128 (7.2%)	144 (8.0%)	141 (7.1%)	
その他収益費用	1	-3	-5	-18	-6	
営業利益	362 (21.1%)	296 (17.1%)	286 (16.0%)	215 (12.0%)	304 (15.4%)	
調整後営業利益	402 (23.4%)	339 (19.6%)	330 (18.5%)	273 (15.2%)	359 (18.2%)	
四半期	USD	110円	110円	114円	116円	130円
平均レート	EUR	132円	130円	130円	130円	138円

販管費（四半期推移）

		(億円)				
		FY21 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)
人件費		249	249	255	256	298
販促費		30	40	44	45	46
物流費		38	39	39	41	44
償却費		48	50	51	54	56
その他		99	112	118	132	123
一般管理費計		465	490	507	528	566
(%)		(27.1%)	(28.4%)	(28.4%)	(29.4%)	(28.7%)
研究開発費		117	130	128	144	141
(%)		(6.8%)	(7.5%)	(7.2%)	(8.0%)	(7.1%)
販管費合計		581	621	635	672	706
(%)		(33.9%)	(35.9%)	(35.5%)	(37.3%)	(35.8%)
四半期 平均レート	USD	110円	110円	114円	116円	130円
	EUR	132円	130円	130円	130円	138円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY21 Q1	FY22 Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	249	298	48	19%	6%
販促費	30	46	16	51%	40%
物流費	38	44	6	15%	6%
償却費	48	56	8	17%	9%
その他	99	123	23	23%	13%
一般管理費計	465	566	101	22%	10%
(%)	(27.1%)	(28.7%)			
研究開発費	117	141	24	20%	11%
(%)	(6.8%)	(7.1%)			
販管費合計	581	706	125	21%	10%
(%)	(33.9%)	(35.8%)			

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY21 Q1	FY22 Q1
営業利益	362	304
調整① 買収無形資産の償却費	39	46
調整② 一時的な損益	1	9
調整後営業利益	402	359

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY22 Q1
事業再編費用	5
その他	4

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

	FY19	FY20	FY21	FY22Q1	FY22予想
設備投資	895	772	692	129	900
償却費	477	484	532	150	635
買収無形償却費	157	146	161	46	173
それ以外	320	338	371	104	462

設備投資は建設仮勘定計上ベース、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

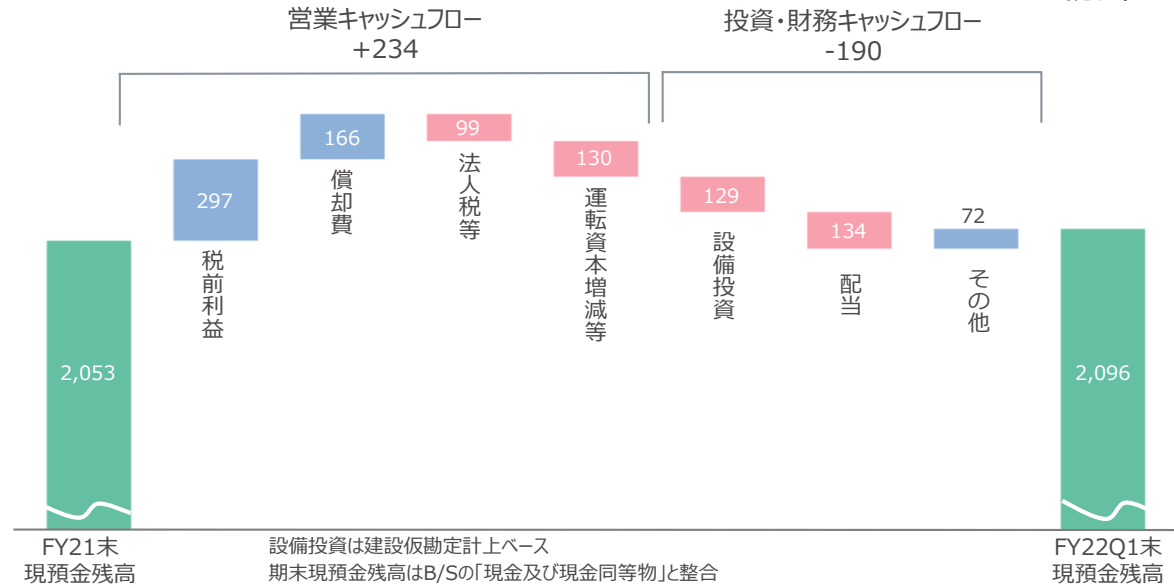
■ 22年度Q1実績（129億円）：主にTIS、ニューロ、PS、血液・細胞テクノロジー等の増産設備、生産スペース、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

■ 22年度予想（900億円）：上記の他、原料血漿採取関連、22年度業績も踏まえながら適切に実行中

	FY19	FY20	FY21	FY22Q1	FY22予想
研究開発費	506	491	518	141	580

キャッシュフロー（Q1）

（億円）



FY22 為替影響の内訳（フロー・ストック）

■ 対FY21 為替影響 +3億円

■ フロー 年間+23億円：ユーロ高・中国元高によるプラス効果

レート（円）	FY21Q1 期中平均	FY22Q1 期中平均	差異
EUR	132	138	6
中国元	17.0	19.6	2.6

■ ストック 年間－20億円：棚卸資産未実現利益消去への為替影響

・6月度に急激な円安が進行、期中平均と期末日レートの差が拡大 → マイナス影響

レート（円）	FY22Q1 期中平均	FY22 6月末	差異
USD	130	137	7
EUR	138	143	6

為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	中国元
売上収益	20	9	38
調整後営業利益	1	5	16

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	中国元	その他
調整後営業利益	7	10	74	13	31	36

